



## 幼児の教育の実際指導の形態

及 川 ふ み

幼児の教育の実践上で、この時期の指導の特徴の一つとして考えられる点は、個人個人の指導であるということ、幼児の一人ずつをどのように指導していくかということが、重要な問題であると思われる。

そこで幼児の指導の形態などということをも、問題としてとりあげるそのこと自体から、如何かとも云えるのであるが、しかし日常の教育の現場について考えてみると、そこにはいく多の問題があつて、この指導の形態（あるいはグループの大きさとも云える）については、実家は常に困難な点にぶつかりながら、いろいろと工夫されていることは事実である。

わたくしたちの幼稚園に数多く見学にこられる幼稚園の先生がたのなかには、「こちらの幼稚園の保育は、自由主義で

すね」とか あるいはまた、「グループ指導ですな」とか、また「一せい保育はなさらないのですね」とかいう調子で、質問のような点もあり、また見学観察からでた感じというようなことをよくきかされる場合がある。幼児の教育の実際を一時間や二時間の短時間、あるいはその時一回だけの見学で、その幼稚園においての一貫した教育精神とでもいうものをよく理解し、またその指導の形態などについての観察などということについては、なかなかつくせない点が多いのではなからうかと常に感じられるのである。こんな場合に、時間の余裕でもあれば、それこそその指導の形態などという点で話しあつてみることもおもしろいことでもあり、また園として指導の形態についての説明もしておきたいとも考えるので

あるが、それがなかなかはたされないでいる場合が多いのである。そこで私たちの付属幼稚園でこの六月の実際指導研究会には、この指導形態 という主題をとりあげたいとその計画をすすめているのである。

幼児の教育の実際にあたっては、一つの定った形態があつて、その形態にあてはめて、指導していくべきものではなく、幼児に対してもっともよき指導をするということが主体であるから、よき指導のためには、いかなる形態をつくつていけるのがよいかということがまず第一に考えられる問題であらう。それゆえ、いろいろの指導形態を予想する前に、指導の実際に直接大きな関係のある点はどんな点であるかということをまず考慮しなければならないのではなからうか。

一、幼児の年令 一、幼児の家庭環境 一、一組の幼児数 一、幼稚園の保育室の広さ、遊園の広さなどの施設の点 一、保育用具、及び設備の状態 一、教育内容について 一、幼児の幼稚園生活の経験の状態 一、教師の指導経験及びその指導力量 その他  
などの諸点は、その指導形態と直接に関係の深いものではなからうか。指導形態は幼児と幼児、幼児と教師の間において形づくられていくべきものであるから常に固定されてはいないものであり、また固定されてはならないものであるとも

云えるのである。そこで一日や数時間内の教育の場をみただけで、その園の指導形態について一つの型を受けとめることは当らないのではなからうかと考えられるわけである。

前にあげた指導形態に関係深い諸点のうち、

幼児の年令という点より具体的の場をみると、

三才児の新入園の時期にあつては、その指導目標は、集団生活へ第一歩ふみ入れたときに、幼児に幼稚園生活に対する安定感をもたせることであらうと思われる。それでこの目標にむかつては一人ひとりの幼児が幼稚園生活をたのしんでくることができる。家庭環境とのへだたりをできるだけ少なくし、一人ひとりがよろこんで遊ぶということであれば、その体勢はおのずから、小さいグループ遊びということになるのではなからうか。そこでできるだけ広い保育室で、比較的遊び道具もじゅうぶんに準備して、小さい遊びの場が保育室内にいくつもできるといのが、自然につくられている形態というものである。この場合勿論三才児であっても、何組の子どもとしての生活態度が次第にできてくるようにしむけていくことはいうまでもない。また食事などについても、自分だけたべたいときにたべるといふことではなく、きまつた時に、組のみんなと一しょに食事をするといふこと、帰宅に際しては教師の指導のもとにそのあり方をおぼえるといふこと

などは当然なことである。そこで幼児の一人ひとりが大きなグループの一員としてある場合、また小グループである場合などのその時間的の長さ、あるいはその回数などについては、幼児の実際の生活の場からいくつかの記録をとってみるとその辺の状態がよくわかるのであろう。

そこで三才児の第一期の頃には、その指導の形態は小グループの場であることが時間的にも大きく、量的にも多く広いのであって、これに一組全体という大きいグループ指導の面が時間的に短く、量的においても少ないのであるのが普通の状態といえるのである。

これが二学期に進むにしたがって次第に遊び仲間も数多くなり、遊ぶ時間もながくなり、小グループから次第により大きいグループを形づくっていくのであるから、そこには指導形態も自らうつり変っていくのが当然であろうと思われる。

四才児としてはじめて幼稚園生活に入ってきた場合も、集団生活の経験の点では、三才児のときと同様であって一人ひとりの小グループの指導という点では考えるのであるが、年令的に一年成長していることから、幼児自ら組とか、友だちと一しょとかいう意識が、三才児よりも早く進んでくるので、グループの大きさなどのつくる時期も早いものである。

それが五才児一年保育児ともなると、四才児よりもさらに

大きいグループ形成が早い時期にできってくる。そのみならず五才児の一年保育の場合などにときどき見うけられることは、一組一集団でという意識をもって幼稚園生活をしようとする傾向さえあるときもある。これは幼児そのものがこんな考えかたをするというよりはその多くは入園前に家人その他の人々の幼稚園という団体生活のありかたについてのちがった考えかたから暗示的の指導によるのではなからうかと思われることすらあるのである。こんな場合、幼児のありのままの姿で幼稚園にきてもらって、全くの白紙の状態から幼稚園では受け入れたいものである。

#### 一組の幼児数

四〇名を一組の幼児数の限度となされている現在の多くの幼稚園では、教育指導の実際の場合では小グループ、大グループとその時々々の指導の最もよき形態をととのえることには、あまりによき状態とは云えないのではなからうか。ことに四才児の四〇名で一組を編成する場合などにあつてその点ことに困難な点が多いようである。この状態にある場合にはその指導形態については、教師の工夫と配慮にまつものが多いといえるのである。

#### 保育室の広さ および遊園の広さ

これらのことについても指導形態と直接に大きなつながり

をもつものであることは、すでに幼児の年令の項で三才児の場合にもべているとおりである。指導形態をいかにつくっていくかの点で、そのグループの大小の状態や、その時間的問題などについて保育室の広さ、及びその遊園の広さは特に深い関連をもつものである。

### 保育用具その他の設備の点

幼児の教育の特徴の大きな点で、幼児の具体的経験といふことを考えさせられるときに、この保育用具の充実とか、設備の整備とかいう問題はその指導形態と直接にからんでくることである。一人ひとりの幼児に直接に経験の機会をもたせるといふねらいからして、そのグループの形成をいかにするかということが考えられていくわけである。

### 幼稚園の教育内容によって

幼稚園の教育内容、健康、言語、音楽リズム、絵画製作、自然、社会、などの六つの経験領域についても、この指導形態には密接な関係をもつものであることはいうまでもない。たとえば音楽リズムなどの場合は、はじめの時期から比較的大きいグループでの指導形態で進められる場合が多いこともあれば、自然の観察の場合などでも皆と一しょにということで興味をひきおこす場合もある。またこれと反対に言語などの場合には、はじめは一对一という立場でなくては、都合よ

く進まないものであるから、一人ずつの幼児と教師という立場で、よく話したり、きいたりすることなどから、できるだけ小グループから始められなくてはならないというわけである。またその他の教育内容についてもいろいろの場合がある。同一の内容の指導の場でも、ある時は小グループの形態が適当であったり、またある時は大グループが適切であることも考えられる。教育内容の取扱ひの上で、最もよい形態を見出しつつその主意に添う形態に進むということである。

### 教師の指導の力量について

教育のすべての場において人的環境が何よりも最も優位にあることはいうまでもないのであるが、ことに幼児の教育の場にあつてはことさらにこの点が重大なのである。今までのいくつかの問題点のうちでもこの点については特に関係が大であるのであろう。今教師は幼児に対して何を求めているのであるか、何を指導せんとしているのであるかなどの教師自身のはっきりとした自覚の上にたつての指導計画であり、指導形態であるということである。

以上幼児の教育の実際の場にあつて、その指導の形態というものが、固定されてはならないものであり、また幼児本意によつてつくられていくべきものであるという考えを常にもつべきはすのものであることが切に望まれるのである。